

商店街名：笠寺観音商店街振興組合（名古屋市）

キャッチコピー

歩いて、出会って、楽しい、笠寺観音商店街

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

南区では高齢化率の上昇が続き、単身高齢世帯の増加や日常的な移動手段の確保が課題となっている。一方で、駅周辺の利便性から近隣への若年・子育て世代の転入も見られ、多世代が安心して歩いて暮らせる徒歩圏内の生活環境や、地域内でのコミュニティ形成へのニーズがこれまで以上に高まっている。



◇商店街の姿

日常的な歩行空間として「歩いて楽しい」仕掛けを定着させ、個店や地域資源を巡る回遊性を向上させる。多様な住民が自然と「出会う」場を創出することで、買い物だけでなく健康増進や日常的な見守り、多世代交流のハブとしての役割を担い、地域に寄り添う生活密着型商店街を目指す。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

より長期的な視点では、本格的な人口減少社会を迎える中、笠寺観音などの歴史文化資産や、地域の学校・住民組織といった既存の地域コミュニティとの繋がりを次世代へいかに継承していくかが重要となる。単なる消費の場ではなく、地域全体の持続可能性を高める拠点の存在が求められている。



◇商店街の姿

歴史と文化が息づく街の顔として、商業者と学校・住民が深く連携した「地域共創」の体制を確立する。「歩いて、出会って、楽しい」という体験価値を日常の風景として次世代へ継承し、訪れる人と住む人の愛着を育み続けることで、持続可能な賑わいと活力を創出する未来型商店街を目指す。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

Ⅱ期での謎解きや街ゼミによる日常的な回遊性向上を起点とし、段階的に個店のバリアフリー化や多世代向けコミュニティスペースの拡充を進める。2030年に向けて学校や福祉団体との常時連携体制を構築し、買い物と健康・見守りが一体となった生活密着型ハブとしての機能を定着させる。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計11名

(2) 地域プラットフォーム

名称：かさでらピクニック実行委員会

目的：ウォークラブルな笠寺の実現を目指し、社会実験やイベントを企画運営する。

参画：商店主、地域住民、学校

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

22年の駅前通行止め社会実験では芝生やマルシェを配置し、多くの子連れ家族が集う空間を創出。アンケートから判明した「散歩・買い物・イベント」の3つの来街ニーズ（各3分の1）を均等に満たす、歩いて楽しい商店街づくりを2030年に向けて段階的に進める。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

22年の実験で得た地域ニーズに応えるため、商業者と地域住民やお寺が連携し、日常の「散歩」を促す街歩きマップの共同開発や、個店を活用した学びの場「寺ゼミ」を開催する。単なる集客イベントに留めず、多世代が安心して歩き、交流できる環境を地域一体で創出することで、高齢化が進む地域の日常的な見守りやコミュニティ活性化に貢献する。